



2023年2月20日
山口県

海洋プラスチックごみ問題を高校生の気づきから住民に展開し、陸から海への流出ストップを目指す

活動報告「やまぐち海のSDGsアクション in 錦川」

山口県では、海洋プラスチックごみ問題を身近な「ジブンゴト」として取り組んでもらうことを目的に、2022年度山口県東部の錦川流域において、「やまぐち海のSDGsアクション in 錦川」を実施しました。

地元岩国高校の生徒で結成された「海のジブンゴト化サポーターズ」は、多くの県民に、海のSDGsアクションを呼びかけた「海のジブンゴト化キャンペーン」啓発イベントを通じて、海洋プラスチックごみ問題への理解を促し、陸から海へプラスチックごみの流出防止に取り組みました。



■「海のジブンゴト化キャンペーン」啓発イベント概要

【日時】 2022年12月10日（土） 9時30分～15時00分（セレモニー9:30～10:30）

【場所】 中央フード平田店 山口県岩国市南岩国町 2-76-27

【参加】 山口県、岩国市、岩国市ミクロ生物館、岩国高校、(株)丸久、(株)エフピコ

【内容】 セレモニー、啓発パネルによる活動報告、食品トレーリサイクルキャンペーン、アンケート

【活動とりまとめ動画】 URL <https://www.youtube.com/watch?v=4W0olj8uygE>

【活動報告の概要（主催者より）】

海のジブンゴト化サポーターズ（以下サポーターズ）として、高校生が主役となり、周りの大人がそれぞれの領域において支えることで、効果的で実体を伴った取り組みを行うことができた。

来店者アンケートでは、「海洋プラスチックごみ問題が身近な環境においても存在すること」や「普段から行っているリサイクルがSDGsの目標の達成に貢献すること」など、身近な環境に意識を向けてもらうことで、地域の環境を好転させる可能性を感じた。また、サポーターズと地域の方が共に行ったアクションは、すぐに目に見える成果として表れるものではないが、活動後にサポーターズや地域の方の言葉に意識や表現の変

化があり、今回の活動の意義と可能性を感じた。



イベント集合写真

■『啓発パネルによる活動報告』

錦川流域をフィールドに調査した結果や、そこで気づいた海洋プラスチックごみ対策を啓発パネル（高校生原案をデザイン会社が仕上げ）にまとめ、スーパーマーケットの来店者に取り組みへの理解を呼びかけた。



『食品トレーリサイクルキャンペーン』

海洋プラスチックごみを無くすためのアクションの一つとして、(株)丸久、(株)エフピコと連携して、リサイクルを呼びかけるオリジナルの食品トレーを県内 78 店舗で導入。

(令和 4 年 12 月のトレー回収量は、28.5 トン、おおよそ 580 万枚)

当日、イベント会場で回収されたトレーは発砲トレーが 5 袋、透明トレーが 3 袋 (1 袋 180 リットルのため、合計約 1,440 リットル)。折込チラシによる宣伝効果もあるが、日常の習慣となっている方も多かった。

事前プレスリリース：<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000024.000060280.html>



『来店者アンケート調査』

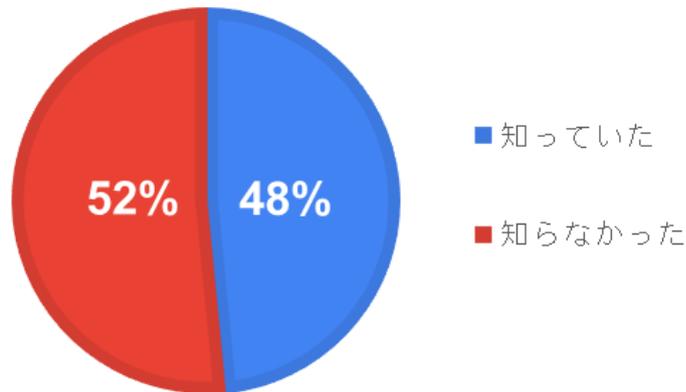
イベント中、海洋プラスチックごみ問題、SDGs に関するアンケート調査を実施 (99 名回答)。

- ・ 高校生の取り組みについて、9 割以上の方が好感を持っていた。
- ・ 海洋プラスチックごみ問題を知っている方は 9 割を超えているが、錦川から瀬戸内海にプラスチックごみが流出していることを知らない方は 5 割以上いた。
- ・ 海岸清掃をしたことがある方は 3 割、まちのごみ拾いを合わせると 5 割の方が清掃活動をした経験ありと回答。
- ・ SDGs を意識して行動している方は 2 割弱、5 割以上が聞いたことがある程度もしくは知らない方だった。
- ・ 食品トレーの店頭回収を普段からしている方は 7 割を超えていたが、4 割の以上の方が SDGs の達成に貢献することを知らなかった。

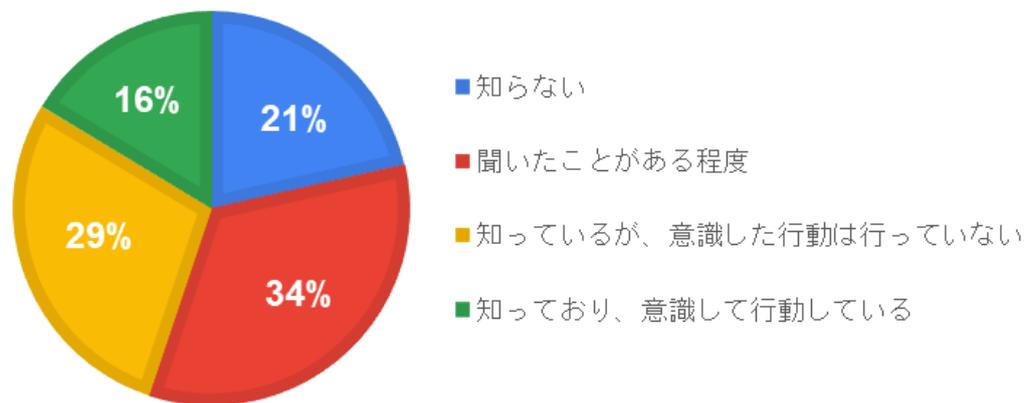


【アンケート結果（抜粋）】

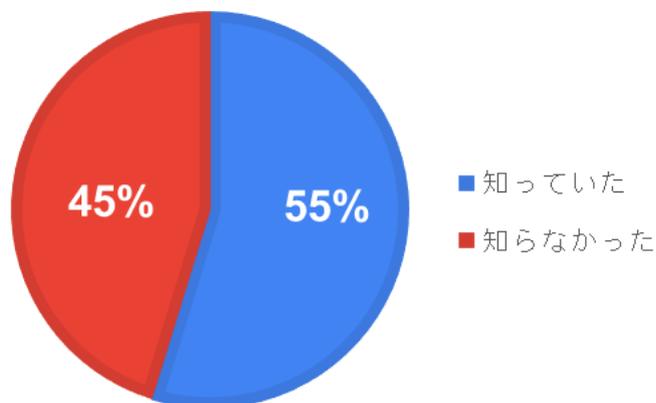
錦川からもプラスチックごみが海に流れ出ていることを知っていましたか



SDGS（持続可能な開発目標）について、ご自身にもっとも近いのは



食品トレーのリサイクルがSDGSの達成に貢献すると知っていましたか



『活動後のサポーターズ言葉』

サポーターズに活動に関するアンケートを実施。

環境問題に視線を向け、視野が広がる若者が増えたと感じる。

参加してみたの感想は？

- ・地球環境問題やSDGsの事について詳しくなった。
- ・身近な川の環境について知ることができた。
- ・生き物やごみの調査を通じて、事態が深刻であることを実感させられた。
- ・高校生にできることは意外にも多くあることが分かった。

県や企業など「社会人」のイメージは変わった？

- ・様々な仕事・役割があることが分かった。
- ・大人に対して少し親近感がわいた。仕事は楽しむことができると感じた。
- ・リアルな企業努力を聞いてよかった。
- ・社会全体でも大人の方たちが何かを変えようと頑張っているとわかった。

「海のプラスチックごみ」「SDGs」「ジブンゴト」などは身近になった？

- ・「SDGs」という言葉を日常で使うようになり、環境問題に「ジブン」ができることは何かを考えるようになった。
- ・食品トレーを持っていく習慣がつくなど、リサイクルが身近なものになった。

今回の活動はどのように役立ちそう？

- ・日常生活でも環境問題を考えることに役立つ。
- ・自分の進路を考える際に。
- ・これからの生活で違った視点を持つことが出来る。
- ・すごく分別を意識するようになった。

『イベント後の様子』

後日店舗では、オリジナルトレーもしっかり回収されていた。また、啓発パネルが高校に展示され、活動が紹介された。



【やまぐち海のSDGsアクション in 錦川】

錦川の内陸から沿岸にわたる流域圏において、地元岩国高校の生徒が、行政、事業者、教育機関などの多様な主体と連携し、「海のジブンゴト化サポーターズ」として、海洋プラスチックごみの発生抑制対策に取り組みました。

<関係機関>

主催：山口県

協力：山口県立岩国高等学校、岩国市ミクロ生物館、岩国市、周南市
株式会社丸久、株式会社エフピコ

【「海のジブンゴト化サポーターズ」とは】

「やまぐち海のSDGsアクション in 錦川」において、県の任命を受け、流域の人々への海洋プラスチックごみを減らすための普及啓発活動に取り組む、地元岩国高校の生徒により結成。(9名任命)

参考：<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/40/164071.html> (県ホームページ)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000091269.html> (活動レポート)

【報道関係者のお問合せ先】

山口県 東京広報事務局 (担当：山下・鈴木・本間)
Mail：yamaguchi-pr@prap.co.jp TEL:03-4580-2431